

令和3(2021)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	達成度	次年度の課題と改善方向
		評価指標	取組項目(○)と内容(●)		
1 教育内容の充実	<p>(現状)</p> <p>○R2の学生に対する授業評価アンケートで、講義が分かりやすいと回答している学生は71.9%であった。また、農業技術検定3級合格率は68.3%、2級合格率は19.4%であった。</p> <p>○非農家や普通高校からの学生が増えており、よりきめ細やかな講義・実習への対応が求められているが、人事異動等により経験豊富な教員が少なく、対応に苦慮している。</p> <p>○ICTやドローン等を活用した新技術やGAPの取組が現場で普及しつつある。</p> <p>○ハード面での教育環境の整備も必要だが、施設、設備、備品の多くが老朽化しているにもかかわらず、更新や修繕が進んでいない。</p> <p>○昨年度は新型コロナウイルス感染症による休校期間中、YouTube配信によるオンライン授業を行ったが、同時双方向型での実施等、教育効果を向上させるための拡充が求められている。</p> <p>○今年度から創設の「いちご学科」について、初年度カリキュラムを着実に実施しつつ、問題点等の検証を並行して行っていく必要がある。</p> <p>(課題)</p> <p>●時代の変化に合わせた学生へのきめ細やかな対応と卒業後に円滑な就農ができるよう、基本知識・技術の習得はもちろん、先進技術の習得、資格取得等が必要である。</p> <p>●教職員の専門性や指導力の向上が必要である。</p> <p>●ICTやロボット技術、ドローン活用等スマート農業を取り入れた実習が求められている。</p> <p>●施設、設備、備品の更新や修繕を着実に実施するため、計画的かつ効果的な予算の確保が必要である。</p>	<p>分かりやすい講義 (アンケート結果)</p>	<p>(1)教育スキルの向上</p> <p>○教員研修会の開催 ・新任教職員を対象として、教科目の履修等に係る説明会を実施する。(4月)</p> <p>・新任教職員を対象として、授業に対する理解度向上のため授業見学を実施する。(8月)</p> <p>・「授業の持ち方、指導方法」等に関する意見交換会を開催する。(8月)</p> <p>○指導者研修会への参加 ・農業者研修教育施設指導職員新任者研修、全国農業大学校教育研修会・指導力強化発展研修会、関東ブロック農業教育施設協議会担当者研修会等への職員の派遣及び研修終了後の派遣職員による伝達講習会の実施する。 ・農業高校農業部会が開催する勉強会への参加。</p> <p>○授業評価の実施 ・授業の理解度を向上させるため、学生と対話しながら理解度を確認しつつ、よりわかりやすい講義に努める。 ・より質の高い教育を行うため、全学生を対象に、前期、後期授業の授業評価アンケートを実施する。(7月、2月) ・併せて、試行実施予定の双方向型オンライン講義についてもアンケートを実施する。 ・アンケート結果から、授業方法等の改善について、分析・検討する。</p>		<p>○教員研修会の開催</p> <p>○指導者研修会への参加</p> <p>○授業評価の実施</p>
		<p>大体分かる</p> <p>80%</p>	<p>○専攻実習等の充実</p> <p>①基本技術の徹底指導</p> <p>○実践教育の実施 ・実習に当たっては、学生が主体的に動けるように指導するとともに、講義の内容も踏まえて事前に目的、方法、留意点等を十分説明する。 ・学生の実践力がより高まるようネットシステムや機械操作の説明等を増やし、また実際に機械を操作する機会を増やす。 ・座学の教科書では押さえきれない実習技術(作業手順や注意点等)に関する指導資料を作成し、職員が統一意識の元、学生指導にあたる。また、理解度の低い学生を対象とした補習を行い、基本技術を徹底する。 ・授業(総合基礎講座Ⅱ)において、農業技術検定の受験対策を少人数制で習熟度に応じて細やかに行う等指導を強化する。</p>		<p>○実践教育の実施</p>
		<p>農業技術検定合格率</p> <p>3級 100%</p> <p>2級 50%以上</p> <p>スマート農業に接する学生の割合</p> <p>100%</p>			

令和3(2021)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	達成度	次年度の課題と改善方向
		評価指標	取組項目(○)と内容(・)		
	<p>●オンライン授業について、様々な場面での活用を念頭に、同時双方向型授業に向けた送受信の問題点の検証、模擬授業の実施等、着実な環境整備が必要である。</p> <p>●「いちご学科」の教育研修体制の確立に向け、カリキュラムや施設面での課題を的確に把握するとともに、農業振興事務所との連携や受入先農家等との事前調整などが急務である。</p>		<p>②先進技術の導入</p> <p>○G.A.P.に係る教育の充実 ・果樹園をGAPモデル農場と位置づけ、GLOBALG.A.P.基準の管理を維持し、「なし」の継続認証を目指す。</p> <p>・校内における水稻の県GAP第三者認証の継続認証を目指すとともに、いちご、トマトで登録基準に達するよう調製室の改善に取り組む。 ・GAP概論は畜産においてはHACCP(ハサップ)の視点を加えた内容を追加する。</p> <p>○連携協定等による教育研修の充実 ・高性能機械化体系を習得するため、大学校の機械体系技術の他、全農等と連携しICTやロボット技術などの先端技術を活用したスマート農業教育を充実させる。</p> <p>・販売許可施設が整備されている三友学園等と連携し、農大産農産物を活用した農産加工品の製造方法・製造施設について学習を充実させる。</p> <p>○ICT技術・新品種等の導入(拡充または理解促進) ・校内に整備されているICT技術については、講義・実習においてより理解度が深まるよう取り組むとともに、校外学習を通して関係機関や民間企業等が主催するフォーラムや現地検討会へ参加し最新技術を学習する。</p> <p>・ICT機器を使用したハウス環境制御やドローンの利用等について理解を深める。</p> <p>○土地利用型園芸技術の習得 ・先端技術を用いた園芸の育苗施設(次世代型園芸人材育成施設)及びたまねぎ・ねぎの機械化一貫体系を有効に活用し、育苗からほ場管理、収穫・調整まで、最先端の露地野菜生産技術を習得させる。</p>		<p>○G.A.P.に係る教育の充実</p> <p>○連携協定等による教育研修の充実</p> <p>○ICT技術・新品種等の導入(拡充または理解促進)</p> <p>○土地利用型園芸技術の習得</p>
			<p>③経営管理技術の習得</p> <p>○実践的経営管理学習の充実 ・個別の課題研究に基づいて、現地における優れた経営管理を学ぶため、先進事例調査など校外学習を実施する。(5月～2月)</p> <p>・県内先進経営者を講師に迎え、実践的な農業経営に関する授業(経営特別講座)を実施する。</p>		<p>○実践的経営管理学習の充実</p>

令和3(2021)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策 取組項目(○)と内容(・)	達成度	次年度の課題と改善方向
			<p>(3)学生の自主性・社会性の向上</p> <p>○販売学習機会の充実 ・イベント参加や農大農産物販売事業等への参加を行い、消費者との交流による品質や価格設定など販売学習の理解を促進させる。</p> <p>○社会生活講座・経営特別講座の充実 社会人としての幅広い教養と人間性の向上を目的として、日常起こりうる身近な問題やトラブルの対処法、暮らしの中のマナー等を身につける。また、県内のトップレベルの農業経営者等を講師として、経営理念や経営内容などを聴講し見識を高めるとともに、農業経営者として必要な幅広い視野を身につける。</p>		<p>○販売学習機会の充実</p> <p>○社会生活講座・経営特別講座の充実</p>
			<p>(4)校内環境の整備・リスク管理の徹底</p> <p>○新型コロナウイルス感染症感染防止対策の徹底 ・農業大学校作成の対策マニュアルに基づき、検温等の健康観察、マスクの着用、こまめな手洗い、校内の消毒、換気等3密対策など感染防止対策を徹底して行っていく。</p> <p>○継続した環境美化の励行 ・職員と学生による校内一斉清掃をイベント開催時及び月1回実施するほか、日常清掃についても日頃からこまめな実施を心掛けていく。</p> <p>○受動喫煙防止対策の推進 ・原則敷地内禁煙となっていることから、校内で講義や研修を受講する社会人等に対しても敷地内全面禁煙を徹底していく。</p> <p>○施設・教育現場でのリスク対応総点検の継続実施 ・前年度の校内におけるヒヤリハット事例を安全衛生マニュアルに登載するとともに、引き続き事例を収集し、その改善策を共有していく。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策のマスク着用により、熱中症誘発のおそれがあるため、マニュアルによる屋外実習時等の取扱いや救急出動要請等について、全体で情報を共有し、注意喚起ならびに安全管理の徹底を図る。</p>		<p>○新型コロナウイルス感染症感染防止対策の徹底</p> <p>○継続した環境美化の励行</p> <p>○受動喫煙防止対策の推進</p> <p>○施設・教育現場でのリスク対応総点検の継続実施</p>

令和3(2021)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	達成度	次年度の課題と改善方向
		評価指標			
			<p>取組項目(○)と内容(・)</p> <p>○学校施設・設備の維持管理 ・施設・設備の長寿命化を図るため、定期点検の実施や見回り等により、施設の状態や使用状況を十分に把握し、計画的な予算の確保に努める。 大規模改修については、緊急度や優先度の高い順に予算要求を行い、できるだけ早期の対応を図るとともに、小規模修繕については他部局の予算を積極的に活用し、迅速に対応していく。</p> <p>○個人情報の適正管理 ・個人情報を扱うことについて、危機管理意識を高め、事務の誤りが起きないように、必ず複数の職員でダブルチェックを行う等、職員の意識向上と事務管理の徹底を図る。</p>		<p>○学校施設・設備の維持管理</p> <p>○個人情報の適正管理</p>
			<p>(5)新型コロナウイルス感染症対策の休校に伴う補習等実施</p> <p>○ICTを活用したオンライン授業の実施 ・前期、後期それぞれにおいて双方向型のオンライン講義試行実施期間を設け、ウイルス感染症の拡大などの緊急時において講師・学生ともに円滑なオンライン講義の実施に資する</p> <p>○授業の補充 ・緊急事態宣言発令時など、職員・学生の行動が大きく制限される事態が生じた際には、授業の補充を行い、履修時間の確保を図る</p>		<p>○ICTを活用したオンライン授業の実施</p> <p>○授業の補充</p>
			<p>(6)「いちご学科」教育研修体制の確立と効果的な学生募集の実施</p> <p>○関係機関団体との連携による産地・農家研修の実施 ・就農計画の具体化への糧となる産地事例調査や就農後のフォローアップ支援を見据えた農家派遣研修を実施する</p> <p>○面談等による就農計画策定支援 ・学生との面談や日常的なコミュニケーションを通じて、自身の経営に関する考え方の変化や就農準備の進捗を把握し、学生への助言や関係機関との調整を進め、就農計画の具体化とブラッシュアップを支援</p> <p>○4大卒業予定者や社会人に対するPR ・経営技術課と連携し、HPの他、首都圏内における各種PR活動を行い、いちご学科の周知を図る</p>		<p>○関係機関団体との連携による産地・農家研修の実施</p> <p>○面談等による就農計画策定支援</p> <p>○4大卒業予定者や社会人に対するPR</p>